

(33) アムリット [アムリット 5] の脳内オピオイド受容体および神経ペプチドに対する影響

文献名

The Journal of Research and Education in Indian Medicine, Vol.10, No.1, pp.1-8, 1991.

著者

Hari M. Sharma,* Silva Hanissian,** Anil K. Rattan,** Stephen L. Stern,+ and Gopi A. Tejwani.**

実施場所

*Department of Pathology, **Department of Pharmacology, and +Division of Psychiatry, College of Medicine, The Ohio State University, Columbus, OH 43210 (オハイオ州立大学、病理学科、薬理学科、精神医学科、オハイオ州コロンバス)

要約

アムリット 5 の脳内のオピオイド受容体に対する影響および神経ペプチドに対する影響を試験した。動物の脳組織を用いた試験管内の試験では、アムリット 5 がミュー、カッパ、デルタ・オピオイド受容体の結合を抑制することが示された。これらの受容体に結合するオピオイドペプチドは、無痛覚症、行動、食欲、内分泌物、および自律神経機能の変化を誘発することが知られている。痛みの経路や肺・胃腸の炎症に関する神経伝達物質、すなわち P 物質の濃度は、アムリット 5 を 3 カ月使用した人間の被験者において有意な減少を示した。この濃度は 3 カ月の期間で 255.8 pg/ml から 36.0 pg/ml に減少した ($p < 0.01$)。この結果は、アムリット 5 が痛みの緩和や肺・胃腸の炎症の緩和に有効であることを示している。